

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
横浜YMCAスポーツ 専門学校	平成5年9月6日	奥園一紀	〒244-0816 神奈川県横浜市戸塚区上倉田町769-24 (電話) 045-864-4990																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人横浜YMCA	平成5年9月6日	理事長 工藤誠一	〒244-0816 神奈川県横浜市戸塚区上倉田町769-24 (電話) 045-864-4990																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
文化・教養	文化・教養専門課程	スポーツインストラクター科	平成12年文部科学省 告示 第17号	-																							
学科の目的	YMCAの精神を生かし、健やかな心と身体を育み、平和で公正な社会の担い手となる為に、総合スポーツクラブやフィットネス施設等の企業と連携を図りつつ、実務に関する専門的かつ実践的な知識・技術を習得し、スポーツインストラクターとして、幅広くスポーツ支援のできる人材を養成する。																										
認定年月日	平成26年3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2	昼間	2700	1470	240	660	-	930																				
時間																											
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
120人	53人	0人	3人	49人	52人																						
学期制度	■1学期: 4月 1日~9月30日 ■2学期: 10月1日~3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験結果・授業態度・日常評価・出席状況を総合判断し、6割以上の評価で単位認定																						
長期休み	■学年始: 4月 1日 ■夏季: 8月15日~8月31日 ■冬季: 12月21日~1月 7日 ■学年末: 3月 1日~3月 31日			卒業・進級 条件	・年間に開講される必修科目の総単位数の80%以上取得 ・専門領域における必修科目の総単位数の80%以上取得 ・卒業学年次においては卒業レポートを指定日までに提出且つ発表及び審査に合格																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任により定期的な連絡及び保護者を含めた面談を実施する			課外活動	■課外活動の種類 ・スポーツ指導ボランティア ・スポーツイベントボランティア ■サークル活動: 有																						
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) 総合スポーツクラブ フィットネスジム 高齢者運動施設 ■就職指導内容 ・業界人事担当者によるセミナー開催 校内合同企業説明会開催 ・SPI試験 履歴書作成サポート 模擬面接の実施 ■卒業生数 15 人 ■就職希望者数 13 人 ■就職者数 13 人 ■就職率 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 86.66666667 % ■その他 ・留年生者数: 1名 (令和 元 年度卒業者に 平成32年5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業者に 令和2年5月1日 時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健康運動実践指導者</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>NESTAトレーナー</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>NSCAトレーナー</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	健康運動実践指導者	③	2人	1人	NESTAトレーナー	③	1人	1人	NSCAトレーナー	③	2人	0人				
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
健康運動実践指導者	③	2人	1人																								
NESTAトレーナー	③	1人	1人																								
NSCAトレーナー	③	2人	0人																								
中途退学 の現状	■中途退学者 3名 平成31年4月1日時点において、在学者42名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者39名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 学習意欲減退 ■中退防止・中退者支援のための取組 半期に一度クラス担任が個別面談を行う。また、出席不良者には早期に個別面談を実施する。			■中退率 9.2%																							
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: <input checked="" type="radio"/> 有・無 特待生制度、横浜YMCA奨学金制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・ <input checked="" type="radio"/> 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: <input checked="" type="radio"/> 有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科の ホームページ URL	https://www.yokohamaymca.ac.jp/sports/contents/sports-trainer/																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校はスポーツトレーナー及びスポーツインストラクターを養成する専門学校である。健康運動実践指導者養成校として資格取得に必要なカリキュラムとして示されている内容を網羅し、カリキュラムとして編成する。さらに卒業後、円滑に卒業人として職務の遂行ができるよう指定カリキュラムの範囲はもちろんその周辺知識においても必要に応じて学習に取り入れていく。また、職業現場で必要とされる知識・技術については、スポーツ業界における人材の専門性や新たに必要となる実務に関する知識・技術について、職業現場との連携を保ちつつ情報収集を図り、教育課程に反映させる。その為に業界有識者やスポーツ施設の実務者等により組織され、年間2回実施する教育課程編成委員会での意見交換や、スポーツトレーナー実務を経験するインターシップ等の現場実習先における教員の研修等も積極的に活用し、学校独自の教育課程を編成するものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

現場の有識者や地域の現場関係の意見を取り入れ、校長や学校のカリキュラム担当者が、授業内容に反映させるか協議し検討。検討後に反映させるかをどうかを理事会に諮り、校長が最終決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
奥 一紀	横浜YMCAスポーツ専門学校 校長	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	
寺内 章一郎	横浜YMCAスポーツ専門学校 副校長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
宮本 倍幸	横浜YMCAスポーツ専門学校 スポーツインストラクター科 学科主任	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
藤澤 如子	横浜YMCAスポーツ専門学校 スポーツトレーナー科 学科主任	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	
勝田 雅文	かつた接骨院 医院長	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	③
上代 圭子	東京国際大学商学部 専任講師	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	②
瀬戸 俊孝	湘南とつかYMCA ウェルネススポーツクラブ チーフ	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和元年9月21日 16:00～17:30

第2回 令和2年3月21日 16:00～17:30(リモートにて実施)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

9月 年間宿泊行事について検討がなされた。また2020年4月のカリキュラム変更に伴い学則(カリキュラム変更)の改訂について協議。専修学校協会より依頼のあるスポーツセミナーのプログラムについて報告

3月 新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン授業の導入について進め方を協議 重ねて年間学事暦の見直しと行事の再編成について意見交換

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

授業を通して、知識・技術を身につけた上で、スポーツトレーナー現場と連携し、現場実習を行う。スポーツトレーナーの業務理解・現場理解を深め、スポーツトレーナーとしての実践力を養うことを目的としている。各科目ごとに目的・目標を設定、段階的に学ぶ。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学生は、授業を通し、実習承諾書(協定書)を交わした施設において、その内容に基づき、担当施設職員により指導、援助を受けて実習を行う。教員は実習先を定期的に巡回し、施設担当職員より報告を受け、可能な範囲での監督・助言を行い、学生が施設において適切な実習が行えるように指導する。教員は各実習先より報告される日常業務の遂行状況と実習評価、及び学生の自己評価とレポートの内容等を総合的に判断し、学習成果として評価する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
フィールドワーク	より積極的に自己の資質を磨く機会として各自が現場体験を行い、その過程で通常の授業で得られにくいスポーツクラブ及び社会体育施設などで接客指導、施設運営管理、安全技術、指導技術等を学ぶ。また、社会の常識、対人コミュニケーション、挨拶・服装などの社会人としての基本的なマナーを身に付けることを目的とする。	スポーツクラブオアシス、NASスポーツ戸塚、スポーツクラブレアリア東つか、ザムロッド本厚木、神奈中スイミング平塚、ロコスポート湘南、インスパ新横浜、ダンロップスポーツ、バルパルススポーツクラブ、住友不動産エスフォルタ、YTC、湘南ベルマーレ
インターンシップ	卒業後の進路を見据え、専門分野で現場実習を行い、その過程で学校にはない環境においてスポーツクラブ及び社会体育施設などで接客指導、施設運営管理、安全技術、指導技術等を学ぶ。自分の目標とする進路でどんな業務を行っているのか、具体的な仕事の内容はどのようなものなのかを自分が今までに習得した知識や技術をより積極的に実践する機会とする。	セントラルスポーツ、ティップネス二俣川、カルド戸塚、ザムロッド本厚木、神奈中スイミング平塚、ロコスポート湘南、インスパ新横浜、ダンロップスポーツ、バルパルススポーツクラブ、住友不動産エスフォルタ、横浜ピーコルセアーズ、横浜Fマリノス、大森スポーツセンター、泉スポーツセンター
指導演習1年次	スポーツ施設において、通常授業での知識・技術の学びを実際の指導の場面で活かし、スポーツインストラクターとしての実践力を高めることを目的とする。また、半期毎に同じメンバー(子ども)を指導することにより、子どもたちのスキルアップを実体験として感じ取り、対象者に合わせた練習計画の立案・実施・評価を繰り返し、指導力向上を目指す。	湘南とつかYMCA、川崎YMCA、厚木YMCA、藤沢YMCA、横須賀YMCA、横浜北YMCA、横浜中央YMCA、戸塚スポーツセンター、寒川総合体育館、秋葉台文化体育館
指導演習2年次	スポーツ施設や学童施設、放課後キッズ等において、指導者として指導力のみならず、安全管理や、グループ運営管理等も含め、プログラムリーダーとしての役割を担えるよう学びを深めていく。主としてグループ法人内の施設を利用していく。	湘南とつかYMCAウェルネスクラブ、東戸塚小放課後キッズクラブ、湘南とつかYMCA学童クラブ、藤沢YMCA、横浜北YMCA、横浜中央YMCA、金沢八景YMCA YMCA山手台学童クラブ
トレーニング実技	本校に併設しているスポーツクラブのマシントレーニングルーム並びにスタジオにて、同施設スポーツクラブインストラクターが直接指導。各種マシントレーニングの用途及び効果について実技指導を通じ技術と知識を深めていく	湘南とつかYMCAウェルネスクラブ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 教職員研修規程に基づき、教員は専門科目の実務に関する知識・技術、その教授方法について、また多様化する学生への指導などに対する研鑽を深めるために、定期的及び継続的に研修・研究の機会を持つ。専門科目は日進月歩で変化、進化している現代では、常に研修等を通して新しい情報を収集し、職業現場をめざす学生に、時事に沿った適切な授業内容を提供することが必要である。実際に職業現場において求められる人物像を正しく理解するために現場を実際に訪問し、生きた情報を指導者が得る機会を持ち、授業の改善に役立てるものとする。
 また、自らテーマを持ち、研究をすることにより、疑問や関心事を明らかにすることは教育現場を預かる教員として当然の態度であり、それを学校として支援することは理念を掲げる専門教育を行っている学校として極めて重要である。特に、現場の声が学べる現場担当者や有識者の講演会等が含まれる学会や、日本体育学会等が実施する研修などは、教員同士の情報交換等により授業力向上につながることから、積極的な参加を勧める。近年特に多様化し、学生のあいだにも学力に大きな開きが見られるようになった。教員の指導力には今後ますます柔軟性が求められることから、専門分野に限らない、様々な対象者への講義・指導をも学校として研修と位置付け、学生対応や授業展開の改善に役立てるものとする。

(2) 研修等の実績
 ① 専攻分野における実務に関する研修等
 研修名「第70回日本体育学会」(連携企業等：一般社団法人日本体育学会)
 期間：令和元年9月10日～9月12日 対象：スポーツインストラクター科の教員
 内容：『70年の体育・スポーツ科学の発展・努力にメダル』をテーマに慶応義塾大学にて実施

② 指導力の修得・向上のための研修等
 研修名「スポーツコンディショニングセミナー」(連携企業等：神奈川県専修学校各種学校協会)
 期間：令和2年2月23日 対象：スポーツインストラクター科の教員
 内容：ケガに苦しまない・ケガをしない為のコンディショニングトレーニング

(3) 研修等の計画
 ① 専攻分野における実務に関する研修等
 研修名「2020横浜スポーツ学術会議」(連携企業等：一般社団法人日本体育学会)
 期間：令和2年9月8日～22日Web会議 対象：スポーツインストラクター科の教員
 内容：多様な人々がともに生きる世界を目指して：体育・健康・スポーツ科学の貢献

② 指導力の修得・向上のための研修等
 研修名「救急蘇生法 CPR実践講習」(連携企業等：公益財団法人横浜YMCA健康教育事業部)
 期間：令和2年11月3日 対象：専門学校教職員
 内容：救急蘇生法並びに応急処置について実技研修を実施

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

実践的な職業教育等を目的とした教育活動その他、学校運営について社会のニーズを踏まえた目標設定をし、評価・公表をすることにより組織的・継続的な改善を図る。卒業生等の学校関係者の他、関係業界や地域との連携により専修学校作りを行う。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野における職業教育の特色は何か) ・学校における職業教育の特色は何か ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・事業計画に沿った運営方針が策定されているか ・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・教務、財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切にされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等の連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・進学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。就職率の向上が図られているか
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校、高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ・自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	記載なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

・SDGsの取り組みについて学校で積極的にその周知と目的理解、そして実行まで移せる取り組みをしていくことが求められているという意見があった。環境教育問題は分野を超えて必要不可欠な課題であり、教職員の研修でのテーマとしても今後取り上げていく必要がある。
 ・施設の老朽化もあり、学生に対して十分な環境にて授業を受けられるよう整備していく必要があるのではという意見をいただいた。特にマシン機器については、最新の器具を導入する予算計画を立て、時代のニーズにあったものを提供できる環境づくりに努める。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
勝田 雅文	かつた接骨院 医院長	令和元年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等
杉山 範行	横須賀YMCA健康教育部	令和元年4月1日～令和3年3月31日(2年)	卒業生
日原 裕太	MBC横浜トレーニングジム 代表	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	企業等
新田 恵斗	医療法人社団 山王リハビリテーション	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL: <https://www.yokohamaymca.ac.jp/sports/about/information/>

公表時期: 令和2年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

・インターネット環境では個人情報含めたセキュリティ強化は昨年課題として取り上げたがどのように改善されたのかの意見をいただき、学校内のパソコンのウィルスソフトの更新を定期的実施している旨の報告を行う。更にはSNS研修を充実させていくことや、学生には一人一台のノートパソコンの整備をしていく必要性について、オンライン授業やオンデマンドでの授業に対応しうる環境整備に早急に取り組んでいくことへの確認していく

・就職状況の詳細を視覚的に分かりやすく伝える工夫や就職への動機付けを早め高められるとインターンシップへの取り組みが変わってくるのではないかと意見をいただき、就職状況をグラフ化して、内容別に識別しやすくする。また、現状の卒業年度毎の就職先一覧に加え、就職先企業・施設毎の卒業生就職一覧を作成し、インターンシップを実施する実習先が就職先に成り得ることを明確にしていく。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・学校の教育方針および目標、特色、経営方針 ・校長名、所在地、連絡先 ・学校の沿革、歴史 ・諸活動について
(2) 各学科等の教育	・入学者数、収容定員、卒業・評価の基準 ・カリキュラム、時間割、年間授業計画 ・進級・卒業の要件および評価基準
(3) 教職員	・教職員数(職名別)担当科目等 ・研修活動や当該専門教育を担当するにあたり専門性に関する情報
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・実習への取り組み状況 ・就労支援への取り組み支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取り組み状況 ・課外活動について
(6) 学生の生活支援	・学生の支援状況
(7) 学生納付金・修学支援	・学生納付金(金額 内訳)、納入時期、経済的支援等
(8) 学校の財務	・貸借対照表 ・決算資金収支計算書 ・事業消費収支計算書
(9) 学校評価	・自己評価・学校関係者評価 ・委員会記録
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 スポーツインストラクター学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○		キリスト教概論	キリスト教が伝える神、人間、自然などに関する基礎的な概念や教えなどを理解。聖書研究や歴史背景にも触れていく。	1 前	30	2	○			○			○	
2	○		体育調査論	体育・スポーツ分野に関する調査及び研究についての学習	2 前	30	2	○						○	○
3	○		環境教育論	地球環境問題について学び、将来に向けて自分たちが今できることについて考える力を育む。またSDG'sに対する横浜YMCAの取り組みについて理解し、専門学校として取り組むことができる目標とターゲットについて具現化する。さらに環境教育の実践の場でもある野外活動の基礎についても身につける。	1 後	30	2	○						○	○
4	○		解剖生理学	テキスト、配布プリントなどを利用して、文章とビジュアルの両面から解剖生理学の基礎を学習する。また筋肉においては実際に触れることにより、理解を深める。必要に応じて、授業内容の復習小テストを実施。	1 前	30	2	○			○				○
5	○		スポーツ生理学	スポーツ現場において必要となる生理学の知識や対応方法を紹介する。スポーツ現場だけでなく日常生活でも使える知識や技術を伝える。	2 通	60	4	○			○				○
6	○		バイオメカニクス	スポーツをはじめとした身体動作をバイオメカニクスの的に解釈するために必要な力学の基礎を学ぶ	2 通	60	4	○			○				○
7	○		スポーツと栄養	スポーツと栄養・休養の関連や重要性、そのメカニズムを理解し、必要に応じて実践できるようになることをねらいとする。	1 前	30	2	○			○				○
8	○		スポーツと医学	スポーツ現場や保育現場において必要となる、怪我予防や疾病等に関する知識・症例を紹介する。知識を得る(インプット)段階から、活用する・指導する(アウトプット)ができるようにし、グループワークやプレゼンテーションを通して知識の定着を図る。	2 集	30	2	○			○				○
9	○		運動生理学	人体が運動時にどのように作用するのかを学習し、トレーニングやスポーツの有効性について理解することにより、運動生理学の基礎知識の習得を目的とする。	1 後	30	2	○			○				○
10	○		スポーツ社会学	スポーツは一生切り離せないものとして、一つの領域を確立するまでになっている。そこで、社会の中のスポーツを様々な視点から捉え、専門的知識や構造、現状、技術について学習し、特徴と意義を理解する。	1 通	60	4	○			○				○
11	○		スポーツ心理学	試合で結果を出すには、「心」「技」「体」が必要といわれる。が、そもそも心とは何か。スポーツ心理学では「心理的スキル」という。「スキル/技術」とは、「訓練」すれば高めることができるということを学ぶ	1 通	60	4	○			○				○
12	○		スポーツ方法論	身体の構造と仕組み、及び運動と身体の仕組みを理解し、健康・体力を高めるための知識と方法論について学ぶ	1 前	30	2	○			○				○

13	○		スポーツ指導論	コーチ、指導者に求められる能力とは何か。更にはコーチングの方法を客観性の高い知見によって検証していく	1後	30	2	○				○				○		
14	○		社会体育概論	体育、スポーツ、フィットネスの現状について知り、その問題点について考える。また、関連した健康問題について理解を深める。	1前	30	2	○				○					○	
15	○		測定評価Ⅰ	新体カテストを中心に測定の目的、異議、実施方法、評価方法を学び、的確に測定と評価を実施することが出来る人材を養成する（健康運動実践指導者資格取得に向けた内容中心）	1後	30	2	○				○					○	
16	○		測定評価Ⅱ	新体カテストを中心に測定の目的、異議、実施方法、評価方法を学び、的確に測定と評価を実施することが出来る人材を養成する（健康運動実践指導者資格取得に向けた内容中心）	2集	30	2	○				○					○	
17	○		スポーツ経営学	本講義では様々なスポーツ産業が複合するプロスポーツのビジネスについて、具体的な事例を挙げながら、日本のプロスポーツ界の現状を課題について学ぶ。	2集	60	4	○				○					○	
18	○		スポーツ産業論	スポーツ産業（フィットネスクラブ、スイミングクラブ、スポーツ用品、プロスポーツなど）の歴史・現状について学習する。また、スポーツ産業のマネジメント、マーケティングについて学習する。	1後	30	2	○				○					○	
19	○		発育発達論	人間の一般的な身体の形態的・機能的変化、すなわち発育・発達、老化について学習していくとともに、運動との関連についてみていく。従来この分野は、子どもの発育・発達の分野に焦点があてられていたが、高齢社会の到来に伴い、加齢や老化についても焦点をあて、講義を進める。	2前	30	2	○				○					○	
20	○		ボディケア	トレーニングプログラムデザインの作成のための基礎知識を高めるとともに、卒業後、指導現場で生かせる資料をケーススタディを用い具体的トレーニングプログラムを作成する。また、その内容に關係する最近のスポーツの話題、講師本人の指導体験談を取り入れて、より具体化を図る。	2通	60	4	○				○						○
21	○		水泳指導法Ⅰ	水泳の科学（科学・バイオメカニクス・生理学・心理学・トレーニング・医学・栄養学）の学習。水泳における各種泳法技術の学習	1通	60	4	○				○						○
22	○		水泳指導法Ⅱ	水泳の科学（科学・バイオメカニクス・生理学・心理学・トレーニング・医学・栄養学）の学習。水泳における各種泳法技術の学習	2通	60	4	○				○						○
23	○		パソコンⅠ	パソコン操作には必要な入力の基礎（タッチタイピング）をマスターし、仕事で活かせる丁寧なタイピングとわかりやすい文書作成を目指す。エクセルの基礎（四則計算）からグラフ操作までを練習し、仕事で活かせるデータ処理を目指します。	1通	60	4	○				○						○
24	○		パソコンⅡ	業務処理を支障なく遂行するために必要なパソコンスキルの習得 ワードプロソフトを使いタッチタイピング練習、基本的ビジネス文章作成練習。ワードでは仕事で活かせる丁寧なタイピングとわかりやすい文章作成を目指すし、パワーポイントでは丁寧なプレゼンテーションを目指す。	2通	60	4	○				○						○
25	○		接遇マナー	1、ホスピタリティの概念と文化2、社会人としての基本的なマナー3、指導者としてのホスピタリティマインド理解4、身だしなみ、清潔感と笑顔の実践5、利用者・スタッフとのコミュニケーション6、授業時は既定の身だしなみ・スーツ・靴を着用し、ベストドレッサーを目指す。	1前	30	2	○				○						○
26	○		トレーニング科学	運動負荷の継続に伴う人間の適応過程を科学的に分析し、健康・スポーツへの応用を図る具体的なトレーニング方法を学ぶ	2後	30	2	○				○						○

27	○		救急蘇生法	救急蘇生法に関する基礎的知識と技術の習得。1、救急蘇生法に関する基礎知識2、人工呼吸と心臓マッサージ3、ケガと病氣	1前	30	1	△		○			○		
28		○	健運対策講座	健康運動実践指導者資格の取得に向けて実技及び座学について対策を練っていく	2後	30	2	○			○				○
29	○		運動処方 I	講義前半では、「ある目的のために運動しようとする場合に、目標達成のために最も適した運動の内容を規定」する運動処方について、基礎的知識を身につける。そして講義後半では、対象者の年齢や健康状態などを考慮して、安全で効果的な運動プログラムを提供できるようにする。また、健康関連の体力テストを自身で経験し、運動プログラムの作成に必要な知識や指導法を身につけていく。	2前	30	2	○			○				○
30	○		運動処方 II	運動・スポーツを「積極的に実践したい人」に対してだけでなく、「分かっちゃいるけど実践できない人」に対する健康運動の安全かつ効果的な指導方法について理解を深め、その手法を現場で活用できるように身につける。	2通	60	4	○			○				○
31	○		トレーニング理論	生理学、解剖学を中心に講義を進め、現場指導に生きる基礎的な理論を学ぶ。	1通	60	4	○			○				○
32	○		レクリエーション理論・演習	レクリエーションの意味と役割、関連する用語について学習すると共に、実技を通して総合的にレクリエーションの理解を深化させる。	1前	30	1	○			○				○
33		○	パラスポーツ演習	パラリンピックやスペシャルオリンピックスの活動について理解を深め、競技者との関わりについて理解を深める	2後	30	1			○					○
34		○	生涯スポーツ演習	生涯を通じて、健康の保持・増進やレクリエーションを目的に『だれもかいつでも、どこでも気軽に参加できる』スポーツについて触れていく	2後	30	1			○					○
35	○		ヨガ	様々なスタイルのヨガを体験し、継続して練習していく。基礎知識としてヨガの歴史やスタイルを学ぶ。グループに分かれて、「指導」を実践してみる。	1後	30	1				○	○			○
36	○		ピラティス	ピラティスの基本動作を学び一般の方に特徴や効果を伝えられるようにする。ピラティスの基本動作を学び、一般の方に特徴や効果を伝えられるようにする。	1前	30	1				○	○			○
37	○		ジャズダンス	バレエの優雅な上品さとヒップホップの自由なリズムカルなダンスの中間に位置しているダンス。あらゆるダンスのベースとなる動作を理解することと、表現について学んでいく	1後	30	1				○				○
38	○		ヒップホップダンス	アメリカで生まれたダンス形態であり、さまざまなステップを習得し、リズム感を身に着けるとともに、音楽を使ったエクササイズに対応する力を身につけていく。	1前	30	1				○				○
39	○		水泳 I	水泳の基本的な技術（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）を習得する力をつける。4泳法の25mのタイムアップと、100m個人メドレーの完泳を目指す。また、泳力検定の記録目標に努力する。授業内に後期実技試験を行う。（泳力検定も実技試験内に行う）。【試験】・4種目25mの記録更新・個人メドレー100mの完泳	1通	60	2				○	○			○
40	○		水泳 II	水泳（4泳法）の技術と周辺技術（スタート・ターン）の向上を目指す。4種目の50mのタイムアップ。個人メドレー（200m）を完泳、泳力検定の記録目標に努力する。授業内に後期実技試験を行う（泳力検定も実技試験内に行う）。【試験】・4種目50mの記録の更新・個人メドレー200mの完泳	2通	60	2				○	○			○
41		○	水泳（選択必修）	水泳の基本的な技術（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）を習得した者が、さらに技術的な習得によりレベルアップを図ることを目的とする。また指導者の観点から水泳を捉え、動作のメカニズムについて説明ができるよう指導していく	2通	60	2				○	○			○

42	○		エアロビック エクササイズ I	エアロビックエクササイズを通して、体力づくり及びリズム感を養う。エアロビックダンス、リズムに合わせて行う自重負荷トレーニング、ストレッチ。学生の体力やリズム感を見ながら、徐々にできることを増やしていく。	1 通	60	2				○	○						○	
43	○		エアロビック エクササイズ II	エアロビックエクササイズを通して、体力づくり及びリズム感を養う。エアロビックダンス、リズムに合わせて行う自重負荷トレーニング、ストレッチ。学生の体力やリズム感を見ながら、徐々にできることを増やしていく。	2 通	60	2				○	○						○	○
44	○		トレーニング 実技 I	各部位におけるトレーニングの適切なフォームの習得。基本的なトレーニングを中心に授業を進めてゆく。実技中心だが理論も行う。	1 通	60	2				○	○							○
45	○		トレーニング 実技 II	理論と並行して実技を行い、正しい実技を行いながら指導ポイントや指導力を養う。将来の指導に役立つ理論と実技経験と指導実践を磨く	2 通	60	2				○	○							○
46	○		アクアエクサ サイズ I	基本動作と変化要素を習得。基本動作を習得し、変化要素を適切に指導できるようにする。	1 通	60	2				○	○							○
47	○		アクアエクサ サイズ II	アクアエクササイズの実践指導を行う。対象者・目的に応じたプログラムの作成と実践指導を行う。	2 通	60	2				○	○							○
48		○	エアロビック エクササイズ (選択必修)	エアロビックエクササイズを通じて、体力作り及びリズム感を養い、簡単なリードが取れるようになる。	2 通	60	2				○	○							○
49	○		キッズコー ディネーショ ン	キッズコーディネーション7つの要素を理解・コーディネーショントレーニングのバリエーションを増やす。	1 通	60	2				○	○							○
50		○	保育実技 I	幼児に対しての音楽・造形・言語表現に対する基本的な技術の習得を目指す	1 通	60	2				○								○
51		○	保育実技 II	幼児に対しての音楽・造形・言語表現に対する基本的な技術の習得を目指す	2 通	60	2				○								○
52		○	ダイビング キャンプ(1年 次)	室内プール実技実習、海洋実習を通して、ダイビングライセンス「Cカード」の取得を目指していく 3泊4日の海洋合宿となる	1 前	30	1				○	○							○
53		○	ダイビング キャンプ(2年 次)	室内プール実技実習、海洋実習を通して、ダイビングライセンス「Cカード」の取得を目指していく 3泊4日の海洋合宿となる	2 前	30	1				○	○							○
54	○		スキー(1年 次)	ウィンタースポーツの代表といえるアルペンスキーを経験し、その技術や安全管理、指導法、およびスキー場のマナーを学ぶ。また、雪や自然環境に触れ、仲間と共に過ごしなが3泊4日の実習を行う。	1 後	30	1				○	○							○
55			スキー(2年 次)	ウィンタースポーツの代表といえるアルペンスキーを経験し、その技術や安全管理、指導法、およびスキー場のマナーを学ぶ。また、雪や自然環境に触れ、仲間と共に過ごしなが3泊4日の実習を行う。	1 後	30	1				○	○							○
56	○		三浦マリン キャンプ	三浦にある海洋合宿施設を利用し2泊3日にてマリンプログラム体験を行う。主にシーカヤックやスキндаイビングを体験し、海の美しさや、自然の広大さを知る機会とする	1 後	30	1				○	○							○

57	○		阿南海洋キャンプ	徳島県にある海洋合宿施設を利用して3泊4日のマリンスポーツ体験を行う。主にヨットやディンギー、カッターなどを体験	2後	30	1				○	○							
58		○	スクーバダイビングⅠ(1年次)	ダイビングライセンスの資格取得に向け知識や技術を理解していく オープン・ウォーター・ダイバー程度の講習内容	1前	30	1				○	○							
59		○	スクーバダイビングⅠ(2年次)	ダイビングライセンスの資格取得に向け知識や技術を理解していく オープン・ウォーター・ダイバー程度の講習内容	2前	30	1				○	○							
60		○	スクーバダイビングⅡ(1年次)	ダイビングライセンスの資格取得に向け知識や技術を理解していく アドバンスド・オープン・ウォーター・ダイバーレベルを目指していく	1前	30	1				○	○							
61		○	スクーバダイビングⅡ(2年次)	ダイビングライセンスの資格取得に向け知識や技術を理解していく アドバンスド・オープン・ウォーター・ダイバーレベルを目指していく	2前	30	1				○	○							
62	○		フィールドワーク(夏期実習)	企業スポーツや学校スポーツ等の現場体験を通じて、組織活動における社会的通念を身につける。また体験活動を通して職業選択や就職活動への道を開く力をつける。	1後	180通	6				○	○					○		
63	○		インターンシップ(夏期実習)	卒業後の進路を見据え、専門分野で現場実習を行い、その過程において接客指導・施設運営管理・安全・指導技術等を学ぶ	2後	180通	6				○	○						○	
64	○		指導演習Ⅰ	企業スポーツや学校スポーツ等の現場体験を通じて、スポーツインストラクターとしての素養と組織活動における社会的通念を身につける。また体験活動を通して職業選択や就職活動への道を開く力をつける。	1通	60通	2				○							○	
65			指導演習Ⅱ	企業スポーツや学校スポーツ等の現場体験を通じて、スポーツインストラクターとしての素養と組織活動における社会的通念を身につける。また体験活動を通して職業選択や就職活動への道を開く力をつける。	2通	60通	2				○							○	
66		○	ボランティア演習(1年次)	地域におけるボランティア活動や被災地や災害支援、マラソン大会やスポーツイベントでのサポート等、社会におけるボランティア活動の意義について理解していく	1後	30	1				○							○	
67		○	ボランティア演習(2年次)	地域におけるボランティア活動や被災地や災害支援、マラソン大会やスポーツイベントでのサポート等、社会におけるボランティア活動の意義について理解していく	2後	30	1				○							○	
68	○		ゼミナール	テーマを選択し、そのテーマについて資料を収集・整理し、卒業レポート作成を行う。レポート発表会に向け準備も行う	2通	60	1				○								○
69	○		ホームルームⅠ	スポーツ業界への理解や知識を深めるとともに、社会人として必要となる教養や一般常識を学ぶ。社会人として必要となる教養や一般常識を学ぶ。	1通	60	2				○								○
70	○		ホームルームⅡ	1. 社会人としての常識・マナーなどを身につける。2. コミュニケーションスキルを向上させる。3. YMCA理解。	2通	60	2				○								○
合計					科目	3240単位時間(単位)													

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。